

2025年度

日中青年會議

活動報告書



2025年7月25日~7月31日

於 Li Po Chun United World College of Hong Kong



代表挨拶

日中青年会議 運営日本チーム リージョナルコーディネーター
須安真菜

第17回日中青年会議の開催にあたり、日本・中国本土・香港・台湾の4地域から総勢47名の参加者を迎え、香港の地で7日間にわたる濃密な交流と学びの時間を持てたことを、心から嬉しく思います。

テクノロジーの進化が進む昨今において、国境を超えたコミュニケーションが簡単になれるようになりました。それでも、SJYCがこうしてオフラインで存在する意義は必ずあります。実際に対話し、同じ時間と空間を共有することでしか得られない学び、ひととひとの繋がりが生まれる場所を提供できたことを嬉しく思います。

昨年の会議以降も、日中間では様々な出来事が起こりました。お互いの国民への印象が好転したとは言い難い状況です。そのような状況で、一高校生として自分たちに何ができるのか、どんな責任があるのだろうかを考えたいという問題意識を持ち、本年度の会議を運営してまいりました。この会議に参加した後で、参加者の皆様が国境を超えた友情を育んでくださることを、心から願っております。

最後になりましたが、このような貴重な場を提供できたのも多くの方々の温かいご支援とご協力のおかげです。ここに、財団の皆様をはじめ、これまで私たちを支えてくださった全ての皆様に心より御礼申し上げます。今後とも、末永いご指導とご支援を賜りますよう、何卒よろしくお願い申し上げます。

目次

1. はじめに	4
2. 日中青年会議とは	5
3. 今年度のテーマ	7
3. 運営計画	8
4. スケジュール	10
5. プログラム内容	11
6. アンケート・参加者の声	19
7. 収支報告	22
8. おわりに	23

はじめに

概要

事業名 : 2025年度 日中青年会議 / Sino-Japan Youth Conference 2025

事業開催期間 : 2025年7月25日～2025年7月31日

事業開催地 : 中華人民共和国 香港特別行政区

事業実施場所 : ユナイテッド・ワールド・カレッジ 香港校 / Li Po Chun United World College of Hong Kong

事業主催 : 日中青年会議委員会

監督者 : Kathy Chan (Li Po Chun United World College of Hong Kong Admissions Director)

協力団体

助成金・寄付(敬称略):

公益財団法人 双日国際交流財団

公益財団法人 東華教育文化交流財団

その他活動協力:

Li Po Chun United World College of Hong Kong

参加者

日中青年会議委員会 運営 : 27名

(日本 8名 中国本土 7名 香港 6名 台湾 6名)

参加者 : 47名

(日本 18名 中国本土 16名 香港 6名 台湾 7名)

日中青年会議とは

沿革

日中青年会議は、2009年に、当時 UWC 香港校 (LPC) の学生であった古川知志雄ら高校生有志によって設立されました。「かつて政冷経熱と言われた日中間の信頼基盤の弱さを克服する」ことを目的に、日中の架け橋となることを目指して始まったのが今の日中青年会議です。

UWCとは、世界各国から選抜された高校生を受け入れ、教育を通じて国際感覚豊かな人材を養成することを目的とする国際的な民間教育機関です。80カ国以上の国から集まる生徒とともに、平和や環境保護、人権等の問題に対して、多くの議論が行われます。現在までに、イギリス、カナダ、イタリア、アメリカ、香港、ノルウェー、オランダ、ドイツ、日本等、世界各地に18のカレッジ(高校)が開校されています。2022年、2024年と、二度もノーベル平和賞にノミネートされるなど(*1)、平和に対する貢献が高く評価されてきました。

そんなUWCの一つである香港校では、中国人と日本人の高校生が寝食をともにしながら、お互いの問題について話し合う機会が多くあります。また、学校全体としての日中問題に対する関心も高く、例年日中関係の問題に関するGlobal Issue Forum が開催されています。

2009年設立時から、新型コロナウイルスによるオンラインでの実施期間も挟みながら、17年間止まることなく、日中相互理解の機会を中高生に提供し続けています。



*1 参考：UWCLPC

<https://www.lpcuwc.edu.hk/post/uwc-nominated-for-the-nobel-peace-prize>

会議理念

批判的思考力と相互尊重を兼ね備えた、
建設的な未来を共に創る日中の親善大使を育成する。

批判的思考力

1. 自己を振り返る力

当会議では、他者の意見に対して批判的になるだけでなく、自らの主張や価値観に対しても疑問を持ち、客観的に見直すことのできる場を提供しています。

2. 異なる意見を受け入れる柔軟な思考の実践

私たちは柔軟性を持って相手の視点に立つ能力を重視しており、ディスカッションを通じて、自らの考えを大切にしながらも相手の立場や文化的背景を理解しようとする姿勢を奨励しています。

3. 情報に対する批判的視点

日中間の異なる価値観を尊重しながらお互いに歩み寄るために、普段から私たちが受け取る情報に対して批判的に見る能力を育成します。

相互尊重

1. 建設的な未来への対話の場の提供

会議を通じて参加者は、多様な意見や価値観に触れながら、相互理解を実現していきます。異なる地域から集まった仲間たちと寝食を共にすることで、参加者は、他者を異国の人間としてではなく、個人として見るできるようになります。この視点の変化は、政治的・国民的なステレオタイプを取り除き、真の意味での相互尊重をもたらします。

2. 異なる文化・価値観の学び

本会議では、中国本土・台湾・香港の様々な文化や歴史に触れることができます。様々なセッションを通して各地域の理解を深めるのはもちろんのこと、実際にその文化で育った友人に話を聞くことで、それらをより身近に感じることができます。また、開催地である香港の文化についても、様々な体験を通して深く学びます。

今年度のテーマ

Change and Continuity

本年度は「Change and Continuity」をテーマとして会議全体を企画しました。一見相反するように思える変化と継続が、私たちの生活や日中関係にどのように関わっているのかを、一週間にわたるさまざまなセッションやアクティビティを通して実感し、考えることができる構成となっています。

私たちは、以下の理由・目的を持って今年度のテーマを決定しました。

現代社会の理解

現代社会は、技術の進歩や国際的な交流、価値観の多様化によって、短期間で大きな変化を経験しています。働き方や学び方、さらには人と人との関わり方に至るまで、社会のあり方は日々変化しています。しかしその一方で、長い時間をかけて受け継がれてきた伝統や文化的な価値観は、社会の基盤を支える重要な要素として残り続けています。

「変化」と「継続」の両方があるからこそ、社会は豊かで多様な姿を保ちながら発展してきたといえます。この2つの関係を改めて見直すことは、私たちが直面している現代社会の姿をより深く理解することにつながります。

過去から未来へのつながり

変化と継続の重要性は、過去・現在・未来を一つの流れとして捉えることでより明確になります。歴史や伝統の中には、時代遅れに思われるものもありますが、それらは単に過去に置き去りにされるのではなく、現代の文脈に合わせて修正や再解釈されることで、新しい意味を持ちながら継承されます。こうした過程をセッションを通して体感することで、私たちは過去から未来までの流れを途切れなく理解することができます。本会議で「変化と継続」をテーマに議論することで、自分たちの社会や文化をより広い時間軸の中で捉える力を養うことができると考えています。

持続可能な解決策

現代社会が直面する課題や、日中の友好的な関係を築くためには、「継続」のための「変化」が必要です。気候変動、貧富の格差、国際関係における対立や不安定さなど、私たちが向き合う課題は複雑で多面的です。これらに取り組むには、過去の経験や教訓を受け継ぎつつ、新しい状況に応じた柔軟な方法を取り入れることが求められます。本会議では、変化と継続を組み合わせた視点から議論することで、参加者が持続可能で実行可能な解決策を考え、行動に移すきっかけを得られることを目指しています。変化と継続のバランスをいかに取るかは、未来の社会づくりにおいて重要な課題であり、この議論こそが若者としての学びや貢献につながるはずで

運営計画

オーガナイザーは、日本チーム内で財務・広報・参加者対応といった役割を担うと同時に、会議に向けて各自がセッション作りや全体の運営を担当します。

オーガナイザー選考

オーガナイザー（運営委員）は本会議の過去参加者と現役UWC生を対象に募集しています。今年度は、エッセイ、模擬セッション制作、面接の3つの選考過程を経て、4名のオーガナイザーが選ばれました。

選考基準としては、本会議へかける情熱の量、財務や広報などの仕事する際の能力の有無、実際の会議時にオーガナイザーとして参加者にどのように対応するのか、セッション運営能力などがあげられます。二次選考の面接には原則として現役オーガナイザー2人が参加し、最終的な選考結果は全体の話し合いにより決定されました。

参加者選考

参加者は、書類選考と面接選考の二段階で行いました。それぞれの選考では、運営委員が選考後に話し合いを重ね、求めたい参加者像を全員で確認しながら進めることで確実に公平性を確保しました。

書類選考では、提出された日本語及び英語のエッセイについて、会議に参加する上で必要とされる、日中青年会議への熱意、明確な目的意識、他者への尊重や論理的思考力といった能力を評価しました。

面接では、日本語と英語での実際の言語運用能力を評価するとともに、本会議の趣旨と目的に相応しい人物像であるかを評価しました。その後、総合的な判断に基づき運営委員一同意見を交え、最終的な合格者を決定しました。

運営スケジュール

10月

オーガナイザー選考

12月

各団体への助成金申請
広報活動

2月

会議企画 開始

4月

募集要項公開
セッション準備開始

5月

一次書類選考
一次シミュレーション

6月

二次面接選考
合格発表

7月

二次シミュレーション
参加者オリエンテーション
会議本番

セッション準備

異なる地域からの4-5人程度のオーガナイザーで協力し、それぞれ歴史、文化、メディアリテラシー、平和構築のセッションの企画を行いました。「参加者にどのようなメッセージを届けたいのか」「テーマに沿ったセッションとはなにか」という問いを幾度も自問しながら、質の高いセッションを届けられるように努力しました。

また、さらに良いセッションを届けられるよう、以前同じセッションを担当した運営2年目のオーガナイザーが運営1年目のオーガナイザーを監督する形で企画を行いました。この際、政治情勢に対しては細心の注意を払いながら、セッション内容を構想しました。

セッションの精度と安全性を高めるため、リージョナルコーディネーターと合同でのミーティングも行われ、セッション内容の推敲が行われました。6月下旬と7月上旬にオンラインでシミュレーションを行い、全てのセッションの内容を実際に再現し、リージョナルコーディネーターによるフィードバックを受ける機会を設けました。この内容をもとに議論を重ね、セッション内容を改善しました。

最後に、現地で3日間をかけて、全セッションのシミュレーションを実施しました。実際に会議で使用する教室で、他のオーガナイザーを参加者に見立てながら行いました。オーガナイザーからの活発な質疑応答やフィードバックを通して、セッション準備の最後の仕上げをすると同時に、ファシリテーションにあたっての疑問点の解消などを行いました。

参加者オリエンテーション

香港での会議に先立ち、参加者同士の絆を深めるために、会議の2週間前に日本チームの参加者向けのオンラインオリエンテーションを開催しました。アイスブレイクや、会議内で起こりうる対立に対応する方法を理解するためのロールプレイや実演を行いました。

今回の会議は日本国外で初対面の人々と共に1週間過ごす上、多くの参加者にとっては初めての全英語の環境であったため、全員が安心して会議に臨めるよう、このオリエンテーションを実施しました。

スケジュール

今年度は、7月25日から7月31日の7日間にかけて会議を実施しました。本会議は、主に4つの大きなセッションと各地域のオーガナイザーによる自国の紹介、そして様々なアクティビティによって構成されています。

天候の問題等で当初予定されていたアクティビティが延期になるなど、イレギュラーもありましたが柔軟にスケジュールを変更し対応しました。

	Day 1 (7/25) Fri	Day 2 (7/26) Sat	Day 3 (7/27) Sun	
07:30-08:00				
08:00-09:00		BREAKFAST	BREAKFAST	
09:00-10:00		Tone Setting	Culture Session	
10:00-11:00		Change and Continuity		
11:00-12:00		LUNCH	LUNCH	
12:00-13:00				
13:00-14:00		Buddy Group Competition	Media Literacy Session	
14:00-15:00				
15:00-16:00	Participants Arrival	Peacebuilding (Part 1)	Final Event Prep	
16:00-17:00		Final Event Introduction	Peacebuilding (Part 2)	
17:00-18:00	Settle in Rooms/Campus Tour	Shopping (Off campus)		
18:00-19:00	DINNER	DINNER	DINNER	
19:00-20:00	Opening Ceremony	Japan Regional Sharing	PRC Regional Sharing	
20:00-21:00	Icebreaking and Residential Briefing	Regional Meeting	Regional Meeting	
21:00-21:30		Roomie Time	Final Event Catch-up	
21:30-22:00	Roomie Time			
	Day 4 (7/28) Mon	Day 5 (7/29) Tues	Day 6 (7/30) Wed	Day 7 (7/31) Thurs
07:30-08:00				
08:00-09:00	BREAKFAST	BREAKFAST	BREAKFAST	BREAKFAST
09:00-10:00	History Session	Hong Kong Regional Sharing	Final Event	Closing Ceremony
10:00-11:00				
11:00-12:00		Day Out (Off-campus)		Farewell and Departure
12:00-13:00	LUNCH		LUNCH	
13:00-14:00	Regional Meeting		Regional Meeting	
14:00-15:00	Dragon/Lion Dance		Theme Reflection	
15:00-16:00				
16:00-17:00	Final Event Prep		Dragon/Lion Dance	
17:00-18:00	Free Time/Shopping			
18:00-19:00	DINNER	DINNER (Off-campus)	DINNER	
19:00-20:00	Taiwan Regional Sharing	Day Out (Off-campus)	Round Table Discussion	
20:00-21:00	Day Out Briefing	Day Out Reflection		
21:00-21:30	Final Event Catch-up	Buffer/ Final Event Catch-up		
21:30-22:00	Check-in			

プログラム内容

トーンセッティング / Tone Setting

このセッションは、さまざまな会議セッションの開始前に、参加者が目標を確認し、安全に活動できる環境を整えることを目的として設けられています。

まず、参加者は「なぜSJYCに参加しようと思ったのか」「どんなことを楽しみにしているか」といった問いについて、バディーグループ内で意見を共有しました。他の参加者との意見交換を通して、新しい視点や考え方に触れる機会となりました。

その後、会議中の個人の目標を設定するとともに、参加者自身で「黄金律」を決めました。「黄金律」とは、設定した目標を達成するために自らが守るルールのことです。セッションの最後には、これらの目標とルールを振り返る機会として、参加者は1週間後の自分宛に手紙を書きました。

さらに、親元を離れて共同生活を行う中での安全対策やルールについて、クイズ形式で確認しました。楽しみながら学ぶことで、会議中に必要な基本的事項を再確認することができました。

最後に、架空の事例を用いたロールプレイを通じて、会議中に起こりうるコンフリクトへの対応方法を学びました。異なるバックグラウンドを持つ参加者同士が互いを傷つけないようにコミュニケーションするにはどうすればよいか、実践を通して理解を深めるセッションとなりました。



セッション

様々なアクティビティの中でも本会議の中核を担うのが、歴史、カルチャー、ピースビルディング、OCトークの四つのセッションです。それぞれが会議のテーマである「変化と連続性」を軸に、セッションごとに色を出しつつ、テーマとの繋がりもしっかりと捉えられるよう設計されました。

歴史 / History

歴史セッションでは、歴史が一個人に与える影響や歴史的背景を多様な視点から捉える重要性に焦点を当て、実施しました。

初めにトーンセッティングを行い、異なる価値観や意見を尊重し合える、心理的に安全な場を作りました。

前半では歴史がどうやって作られているのか、歴史的出来事が地域ごとにどのように異なって解釈されているかについて考察しました。実際に各地域で使われている教科書を比較し、歴史は選択肢や解釈の違いによって議論が生まれること、私たちが同じ歴史的出来事でも異なる視点から見る理由とその重要性を学びました。

後半ではこの考えを深め、私たち個人の経験が歴史にどう影響するかを探るため、参加者は自分の家族や知人に影響を与えた歴史的出来事のエピソードを持ち寄り、共有しました。これを通して歴史はメディアや教科書に書かれていることだけでなく、個人の経験からも形成されていること、その歴史は世代を超えて受け継がれ、私たちのアイデンティティの一部を形成していることを学びました。

このセッションで、歴史を学ぶ重要性や、歴史が現代社会とどのようにつながっているかの理解を深められる機会を提供することができたと考えています。



文化 / Culture

文化セッションは、4地域の言語や方言をトピックとして、今年度のテーマである「change and continuity」に対する新たな視点を探ることを目的として実施しました。

文化的なコンテキストによって翻訳が難しい言葉や、各地域の流行語をケーススタディとし、言語が文化から受ける影響や変化の課程を考察しました。また、台湾の福建語や日本のアイヌ語を例に、言語と政治の関係にも触れ、政策や社会的圧力が言語の存続に与える影響について学びました。

後半では、映画ミニオンズよりミニオン語と、国際語であるエスペラント語を比較し、架空の言語と実在の人工言語を通じて「なぜ普遍的で単一の言語は存在しえないのか」を議論しました。これにより、言語は単なるコミュニケーションツールではなく、文化を映す鏡であるという理解を深めました。

この文化セッションを通じて、変化と連続性に着目して言語と文化の相互関係を学ぶとともに、文化の多様性に対する価値を参加者自身で再確認する機会を提供しました。



平和構築 / Peace Building

ピースビルディングセッションでは、平和構築という概念を身近に感じてもらうということを目的に、学問的理論や概念を実際のケースに落とし込んで考えることができるアクティビティを行いました。

今年のセッションでは、主な概念として、

1. 積極的平和、消極的平和
2. 平和学者ガルトゥングが提唱した理論
3. 移行期正義

の3つを紹介しました。

それに伴い、参加者へのチョコレートの分配を議論するアクティビティや都市開発をモデルケースとしたロールプレイアクティビティが行われました。最後には、実社会に見られる日中間の違いから生まれる対立の解決策をバディグループで議論し発表するアクティビティを行いました。その際には、自己のアイデンティティと発表の題材とした対立の問題がどのように関連しているかを考えることを参加者に促し、会議全体のテーマであるアイデンティティについてより深く考える機会を平和構築の視点から提供することができました。



OCトーク / OC Talk

OCトークでは、日本・中国本土・香港・台湾、各地域がそれぞれに抱える社会問題について理解を深めるという目的の元、各地域のオーガナイザーが1時間のワークショップを行いました。日本チームは「伝統工芸士の継承者不足」、中国本土チームは「エモ消費問題」、台湾チームは「メンタルヘルス問題」、香港チームは「住宅危機」をテーマとして扱いました。

いずれもクイズやミニゲームなど、参加者が積極的に取り組める工夫が施された充実した時間となりました。日本チームのOCトークでは、実際にある伝統工芸品のプロモーション企画を行うアクティビティや組紐作りなどを通して「継承者不足」に留まらない、柔軟な発想力と問題解決への姿勢を学ぶことが出来ました。



テーマ「変化と継続」

テーマセッション /Change and Continuity

テーマセッションは、今年の会議テーマである「Change and Continuity」がなぜ選ばれたのかを参加者に伝えるとともに、このテーマが各セッションや日常生活とどのようにつながっているのかを考えるきっかけを提供することを目的として構成されました。

冒頭では、高校生として今このテーマを考える意義をアクティビティを通して確認しました。次世代を担う立場として、私たちは何を未来に伝え、何を变えていくべきなのかを問い直すことで、このテーマが自分自身に深く関わっていることを理解しました。

続いて、「Warm Data Lab」という手法を用いた自由なディスカッションを行いました。これは「Change and Continuity」が持つ複雑さを理解し、文脈を横断した多面的な理解を促すことを目的としています。参加者は「変化し続ける世界において、ハーモニーとはどのようなものか」という問いを軸に、文化、歴史、教育といった多様な背景から意見を交わし、テーマを多角的に捉える視点を得ました。

最後に、政策とテーマの関係性について考えるパートが行われました。参加者はまず政策がどのようなサイクルでつくられているのかを学び、その後、架空の政策を題材に、そのサイクルに基づいて改善の可能性を検討しました。これにより、「Change and Continuity」という抽象的なテーマが実際の社会や生活の中でどのように活用されているのかを具体的に体験することができました。

このセッションを通じて、参加者は「変化」と「継続」のバランスを考えることの難しさと重要性を理解し、同時にその学びを現実の社会に応用する視点を獲得しました

他のセッションにおけるテーマとの繋がり

今年度のテーマに沿って、他のセッションは以下のようなさらに細かいテーマを設けました。

文化セッション

- 4地域における言語文化の変化と継続性
- 変わり続ける言語や方言が文化に及ぼす影響

歴史セッション

- 過去の歴史的出来事が現在に及ぼす影響
- 過去の出来事を評価し、私たちが受け継ぐ歴史とどのように向き合い、和解することができるのか

平和セッション

- 「変わることはないものは平和である」という考え
- 過去を振り返り、今後の平和構築にどう活かせるか

テーマリフレクション

会議の終盤に行われたテーマリフレクションでは、変化の激しく不確実な現代において私たちはすべての価値観や意見を尊重できるか、そして強い感情によって起こる争いをどう避けることができるか、という問いに向き合いました。このテーマに関する7つの質問をもとに、参加者一人ひとりが会議を通して感じた気づきや疑問点について、バディグループ内でディスカッションを行いました。各セッションやセッション以外の時間で設けられたディスカッションで得た気づきを共有することでより深みのある問いについて考えることが出来ました。

参加者主体の学び

セッション運営はオーガナイザー達が行うものの、日中青年会議では、会議の理念として「参加者が常に会議の中心となること」を掲げています。そのため、セッションのほとんどにおいて、バディグループによるアクティビティが組み込まれている他、会議終盤には、ファイナルイベントと呼ばれる、企画や準備から実行まで全て参加者の手によって行われるイベントも用意されています。

ファイナルイベント / Final Event

本セッションは、本会議のテーマ「変化と継続」に基づき、他のセッションで学んだ知識やスキルを実際に活用することを目的として実施されました。題材として取り上げられたのは、戦争関連遺産の保存と新しい学校建設をめぐる架空の対立です。参加者は歴史家、地域住民、教師、教育省、市民文化省、観光省、報道機関といった多様な利害関係者の立場に立ち、それぞれの観点から議論を展開しました。

各バディグループは与えられた問いに基づいて自分たちの立場を整理し、情報を精査しながら意思決定を行いました。その後、他のグループと意見を交換することで、自らの主張を調整しつつ合意形成を試みました。議論の過程では、利害が必ずしも一致しない状況で対話を続ける難しさや、意見を的確に言語化して相手に伝える重要性を体感することができました。

最終日には「教育省による新校建設計画に対して住民と遺産保護団体が抗議デモを起こした」という緊急ニュースが提示され、これまで築いてきた立場がどのように揺らぎ、また変化していくのかをグループごとに検討しました。このシナリオを通じて、歴史認識の多様性、文化遺産の継承に伴う課題、そして公共政策における透明性や住民参加の必要性について、より現実的かつ複雑な側面から考察する機会となりました。

本セッションを通じて、参加者は歴史や文化をめぐる課題が単なる保存か発展かという二項対立ではないことを学び、相互に調整や対話を重ねる中でより良い解決策を模索するプロセスを実践しました。また、ピースビルディングやメディアリテラシーといった会議中に培ったスキルを実践的に応用することで、学びを自らのものとして体験し、会議後の生活や将来においても活用できる具体的なイメージを持つことができました。



香港での文化体験

香港探索 / HK Outing

香港探索では、4つのグループに別れて香港の街を1日歩き、比較的郊外に位置するLPC UWCを離れて、香港ならではの文化や空気感を体験する良い機会となりました。予定日であった7月29日は生憎の大雨で翌日に変更となりましたが、繁華街で地元の人々の暮らしを覗いたり、香港のランドマークとも言えるヴィクトリア・ハーバー周辺で大都市の雰囲気を感じたりするなど、盛りだくさんの日となりました。また、夜には参加者全員が集まり、豪華絢爛なレストランにて共に香港料理を楽しみ、皆にとって思い出に残る1日となりました。

獅子舞、竜舞 / Lion, Dragon Dance

獅子舞、竜舞は、中国本土や香港、台湾の旧正月に主に親しまれる伝統的な踊りで、人々を惹きつける煌びやかな外見と躍動感のある動きが特徴です。獅子舞は二人、竜舞は基本9人が一つの舞を構成するため、練習を重ね、息を合わせることがとても大切です。本会議では、全参加者が片方の舞を選択し、LPCのチームに所属する生徒と外部講師の指導のもとに技を学びました。また、竜舞では数名が太鼓の習得を選択し、伝統的な竜舞を導く太鼓演舞への理解を深めました。閉会式では、多くの参加者が登壇し学んだ成果を披露しました。慣れない動きに戸惑い、特に竜舞では重さに驚いたという声もあったものの、限られた時間と場所の中で、互いに協力し合うことによって、驚異的な早さで次々と技を習得していきました。

多くの参加者が楽しみにしていると公言していたこの獅子舞、竜舞体験ですが、実際閉会式で披露し終えた後には、達成感を嬉々として共有し合う参加者の姿が見られました。異文化への親近感や興味が高まったと共に、仲間と協力して一つの物事を作り上げられた経験がより参加者同士の絆を深められたようです。



コミュニティ

他地域の参加者との交流を促進し、参加者が1週間、快適に安全に過ごせるようなコミュニティ形成を心がけました。このコミュニティを通し、参加者からは他の参加者と親密な関係を築き、絆を深められたという声をたくさんいただきました。このコミュニティは会議中、参加者の心の支えになりました。

Buddy Group

バディグループとは毎日のセッションでのディスカッションやアクティビティなどを行うグループのことです。1つのグループには4地域すべての参加者が約7名、そして運営が3名で構成されています。これは参加者が安心できるような居場所を作った上で、ディスカッション内で新たな視点を知ることができるきっかけを作るためにあります。また、参加者の心配な点を気軽に相談できるように、各バディグループ内には1名の運営がリーダーとして配属されています。



会議の前半ではバディグループ内で親睦を深めるためのコンペティションがあります。そこでは、各地域の伝統ゲームに関連し、アレンジをしたミニゲームを回り、集めたポイントを競います。けん玉やCCレモン、ジェスチャーゲームなど言語の垣根を越えたグループ内でのコミュニケーションを促すために計画と実行がされています。

地域別ミーティング / Regional Meeting



地域別ミーティングは、参加者が安心して過ごせる環境づくりに大きく貢献しました。同じ地域出身の参加者と運営メンバーが一つの部屋に集まり、母国語で話し合うこの時間では、セッションの振り返りや、閉会式での地域別パフォーマンスの準備、メンタルヘルスチェックなどを行いました。母国語で自由に話せるリラックスした空間が生まれただけでなく、英語でのディスカッションやコミュニケーションに不安を抱える参加者が悩みを共有したり、運営側がサポートを必要とする参加者の声を丁寧に聞く機会にもなりました。参加者・運営メンバーを問わず、多くの人にとってこのミーティングは、会議全体を支える大切な時間であったと実感しています。

寮生活 / Dorm Life

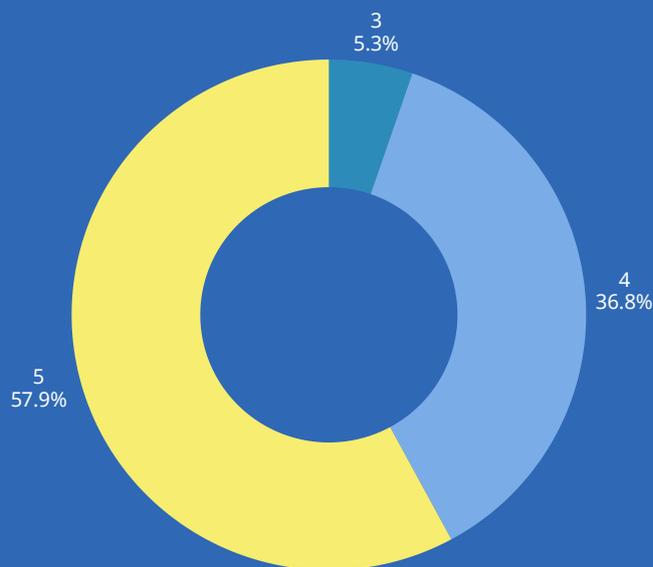
部屋割りでは、出来る限り異なるバックグラウンドを持った5名がルームメイトとなることを基本としており、参加者が多様な仲間と交流する機会を設けています。また、同じバディグループのメンバーを避けた部屋割りを行い、参加者がより多くの人と交流することで経験の幅を広げることを目指しました。同室には、運営メンバーが1-2人振り分けられ、公衆衛生や安心出来る空間作りを徹底しました。

さらに、本会議では、学術的なセッションだけでなく、自由時間やカラオケタイムなど、参加者が新たな友人との絆を深める機会も豊富に設けました。セッション外でも学びや議論を促進することで、より多角的な視点を提供することが出来ました。

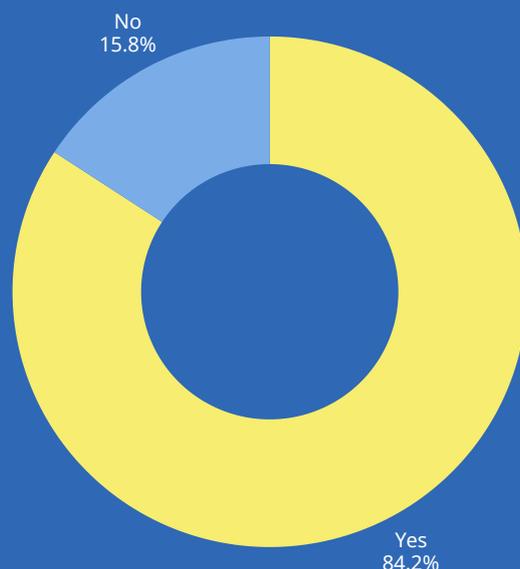


アンケート

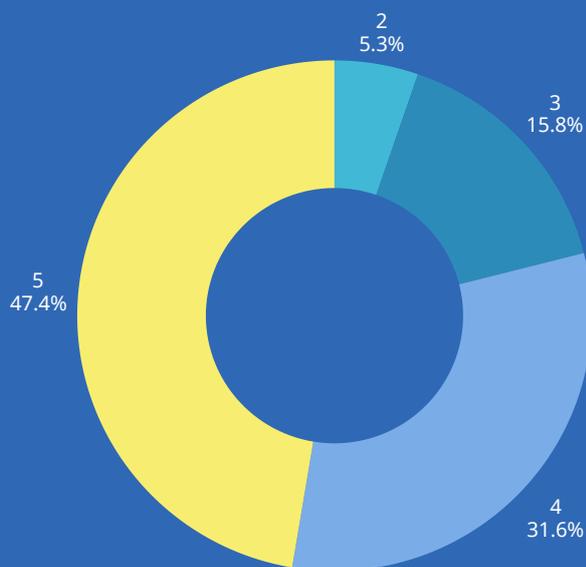
会議の全体的な満足度は？
(1...とても不満、5...とても満足)



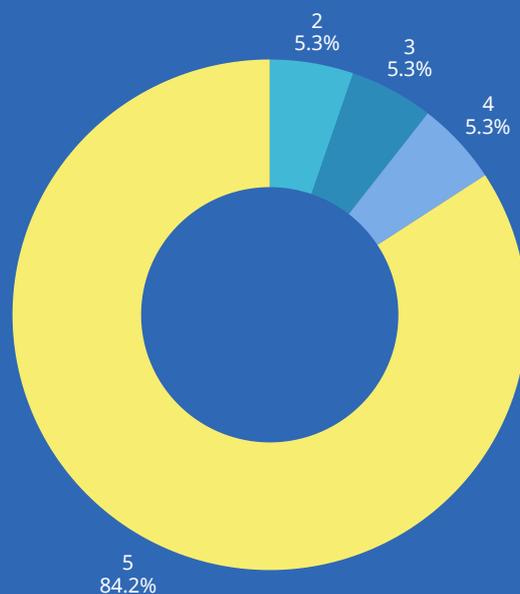
他の参加者と十分に交流できましたか？



オーガナイザーは話しかけやすかったですか？
(1...強く反対、5...強く賛成)



また会議に参加したいですか？
(1...全くそう思わない、5...とてもそう思う)



参加者の声

Taking part in SJYC was my first time at an international conference , and **it really changed my perspective**. Before I went, I often held back from showing my true self and sharing my thoughts. But at SJYC, **I found myself among participants from various cultural and social backgrounds**, which made every chat meaningful and thrilling. This experience also let me **learn about the history and culture of the four regions, while also looking at global issues from different angles**. More than just an event, **SJYC taught me the importance of dialogue, respect, and teamwork, lessons**. (18歳・日本チーム)

日本では、中国に対する否定的な報道を目にすることが多い。現代社会において、中国は経済や技術革新の分野で世界をリードしているにもかかわらず、僕たち日本人はどこか中国という国に対して、不信感や恐れを抱いてきたのではないだろうか。地理的には近くても、心情的には遠い——そんな存在だった中国について、僕は以前からその真実を知りたいと思っていた。この夏、僕は日中青年会議に参加し、実際に中国を訪れ、本土、台湾、香港の同世代と生活を共にする機会に恵まれた。この経験は、僕の考え方を大きく変えるものとなった。

会議で出会った友人たちは皆、非常に知的で思慮深く、礼儀正しく、学ぶ意欲にあふれていた。自分の意見をしっかり持ちながらも、他者の考えに真摯に耳を傾け、多角的な視点で物事を捉える力があつた。僕たちは毎日、近代史、経済、文化などさまざまなテーマについて率直に議論を交わした。彼らと語り合う中で、**中国と日本は単なる隣国という関係を超え、互いに信頼し、協力し合えるパートナーになれると確信するようになった**。

最も罪深いのは、「知らない」ということだ。無知こそが、恐れや偏見の源となる。メディアや他人の言葉に流されるのではなく、**自分の目を見て、自らの頭と心で考えることの大切さを、僕は改めて実感した**。近い将来、会議で出会った仲間たちとともに、アジアや世界の輝かしい未来のために協働できるなら、これほど幸せなことはない。(16歳・日本チーム)

参加者の声

学びも楽しさも最高の1週間でした。日中の歴史や課題について一日中議論し、夜中もルームメイトとお互いの学校生活や文化について語り合いました。**同意ではなく新たな意見を求めている仲間との議論は非常に有意義で、日本や他の地域の今まで知らなかった事実や新たな考え方に触れることができ視野が大きく広がりました。**ここで出会った仲間と経験は確実に私の一生の財産です。(17歳・日本チーム)

discussionの一つ一つが私に新しい視点をくれて参加してる日々毎日が気づきや学びの繰り返しで一瞬で過ぎていった7日間でした。何よりも国籍関係ないたくさんの友達に出会えて夜も昼も朝も毎秒幸せで一生忘れられない経験になりました。(16歳・日本チーム)

印象に残っているのは、戦争という重いテーマについて日中双方の参加者全員で素直に直接意見を共有したことで、自分の中にはなかった視点や価値観に触れることで、**それぞれの立場から平和や歴史に対する考えを知り、議論の広がり可能性を実感したことだ。**意見交換を通じて自分の考えをより深く掘り下げることができただけでなく、他の国の課題も知ることができ、**日本の一生徒として積極的に発言できたことは大きな自信を持つきっかけとなった。**

さらに今回の経験を通じて、普段自分が過ごしている**コンフォートゾーンから一歩外に出ることの大切さを実感した。**実際に外へ踏み出すことで、自分を最大限に表現し、全力で楽しめる場所があると気づけたことは、今後の挑戦への大きな原動力や糧になると思う。日中青年会議で得られた貴重で大切な学びや価値観、出会いをこれからの自分の成長に最大限生かしていきたい。(15歳・日本チーム)

収支報告

収入の部

参加費		1,080,000
	参加費6万円x18名	1,080,000
財団助成金		450,000
	双日国際交流財団	350,000
	東華教育文化交流財団	100,000
自己資金（前年度繰越金）		192,951
ウェブサイト費		11,355
利息		480
計		1,734,786

支出の部

運営費		34,481
	広告費	27,975
	印刷費	6,506
滞在費		834,961
交通費		536,659
来年度予算		328,685
計		1,734,786

おわりに

このたび、皆様のご支援とご協力を賜り、2025年度日中青年会議を滞りなく終了することができました。ここに謹んで御礼申し上げます。

一週間という限られた期間ではありましたが、参加者が自らの殻を破り、日を追うごとに大きく成長していく姿は、この会議の意義を改めて実感させるものでございました。

本会議は学生主体で運営されるため、毎年、人材の確保、資金調達、会場準備など多くの課題に直面いたします。そのような状況の中、第17回会議を無事に終えることができましたのは、偏に皆様のご支援とお力添えの賜物でございます。

今後とも、より安全かつ充実した会議を実現すべく、委員会一同研鑽を重ねてまいり所存でございます。改めまして、長年にわたりご支援とご協力を賜りました皆様に心より感謝申し上げます。

今後とも、日中青年会議を何卒よろしくお願い申し上げます。

2025年度日中青年会議委員会一同





発行・運営：2025年度 日中青年会議委員会

協力団体：



公益財団法人 双日国際交流財団

公益財団法人東華教育文化交流財団



UWC LI PO CHUN
UNITED WORLD COLLEGE
OF HONG KONG